

## 小規模多機能型居宅介護事業所及び認知症対応型共同生活介護の自己評価票

( 網掛け部分は外部評価の調査項目 )

( 別紙 3 )

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員間で検討し「高齢者が地域でいつまでもなごやかに安心して暮らす為に必要な社会福祉事業」と運営理念を定めている		理念実現の為努力している
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝申し送りの時や月1回の会議の時に理念を再確認している。 事務所やフロアに掲示している		毎朝実施している理念の唱和を継続
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域の自治会長や民生委員・御家族に運営会議に参加していただき、理念を理解してもらうよう話している		グループホーム便り(年4回発行)に理念を盛り込む様に工夫する
2. 地域との支え合い				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所へ散歩へ出た時など、近所の方と挨拶を交わしている。 気軽に立ち寄ってもらえる様な形はまだ出来てない		町内会への加盟を検討している
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事、運動会や夏祭り・文化祭等には声をかけていただき、参加して交流を行っている		地域への行事に参加し、関わりが増やせる様に努力していきたい
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域貢献についてはまだ取り組みはできていない		GH設立3年と年月が浅い為、今後検討し、地域との交わりを深める様に努力する
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎回の会議において自己評価や外部評価について考え、又、外部評価の改善にも積極的に取り組んでいる		外部評価後、注意点を考慮し、その場限りにならない様、全員で問題点を改善出来る様に話し合い実行する
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を行い、ホームでの取り組みを報告している		家族や地域の方々より意見をいただき、サービス向上に努めたい

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域の包括支援センターの担当者を中心に、グループホーム事業者同志で相談や情報交換をしている		今後も勉強会を継続し、お互いの情報交換の場とし、何事も相談出来る様に努力していきたい
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修に参加し、成年後見制度については相談があれば説明し、相談機関を紹介している。 玄関にパンフレットを設置している		後見人制度について職員も理解を深める様に研修やカンファレンスを実施していきたい
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回の会議で拘束の現状と虐待について話し合っている		話し合うだけで終る事なく、身近な事例等を取り上げ職員の関心を深める
	4. 理念を実践するための体制			
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホームのパンフレット・契約書や重要事項説明書を用い十分な説明を行い、必ず疑問を聞くようにしている		現状で問題はないか、御家族の意見交換の場を設ける様に努力する
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	申し送りの時に利用者様の意見や不満を職員は責任者へ報告するようにしている。 又、改善できるよう努力している		利用者の声が聞ける様にコミュニケーションを取り、運営に反映させている
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホームでの生活の様子や健康状態は往診の後等、電話で連絡したり、金銭管理は毎月の請求の時にそれぞれ報告、又、職員の異動は運営推進会議で伝えている		御家族への連絡の機会を蜜に取り、個々に対応出来る様にする
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族の苦情や意見は報告書を書き全職員へ伝え、改善策を考え努力している		面会時や電話、又、運営推進会議に於いて常に話を伺える様にする
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は主任・ホーム長・センター長へとつなぎ、意見が伝わるような環境がある		運営意見はなかなか難しい事が多く、伝達ルートはしっかりしているため、今後も機会は多く持つ様に努力する
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務の調整はその時々に応じ柔軟に対応している。 行事等は増員し対応している		現在、職員人員安定している為に落ちついている
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限で行われる事もあるが、退職者は頻繁に出ている。 利用者へのダメージは既にいる職員に依り防止出来ている		働き易い職場の環境作りに心掛け、利用者へのダメージ防止に努力する

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	5. 人材の育成と支援			
19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集採用については性別や年齢を理由に採用対象からはずすことのないよう努めている。 職員の能力を發揮できるように本人と相談し、担当業務(レク・食事・服薬・広報・物品)を決めている		職員個々の能力を見極め、十分に發揮出来る様に環境作りを行い、対応出来る様に努力する
20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権マニュアルや待遇マニュアル等を用い、研修を行っている		カンファレンス時に行う勉強会の回数を増加し、人権教育を強化出来る様に努力する
21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新しい職員は新人研修を行い、先輩職員がついて指導を行っている。 外部の研修には段階に応じた研修に参加し報告して、他の職員にも資料を回覧している		外部研修等、日程調整の困難な事もあるが、勤務中に於いても個々の能力に合わせトレーニング出来る様に努力する
22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホーム事業者同志で集い、相談や情報交換などしている		地域包括支援センターの担当者の声掛けで集合し、勉強会・意見交換会を実施しているが、今後も時間を作り参加し、交流を深めていきたい
23	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の悩みは各ユニットの主任、又ホーム長へ相談出来るようになってきている。 又、センター長や部長との面談も行われている		個人とのコミュニケーションを充実させ何事も相談出来る関係作りを行う
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	月に1度、報・連・相シートを提出し各自のできた事できなかった事、今後どのように取り組むか等、個別の目標を立て取り組んでいる		報・連・相シートを今迄以上に活用し、各自の向上心が持続する様に努力する
	安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
	1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に本人様と面談し体験入所などを行い、よく話を聴くようにしている		事前面談のみでは理解困難な事も多い為、入居後も本人様から話を聞く機会を持つ様に努める
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学の時など、家族の希望・悩みを聞き、どのような対応ができるか取り組むようにしている		家族連絡を頻繁に行う事に依り、家族の思いが受け止められる様に努める
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	両方からの話を聞き、何を求めているか、必要な支援は何か、対応できるように努めている		今後も双方からの意見をよく聞き、何が必要なのか、見極めながらの支援を続ける

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	どのようなサービスを求めているか十分に話し合い、信頼関係を築き、ホームでの生活に馴染めるよう連絡をし相談している		職員が利用者様から出来る事・出来ない事・得意な事等の聞き取りを充分に行い、場の雰囲気に馴染める様に援助していく
	2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者様の得意な事・趣味等を聞き、共にできる事を見つけホームでの生活リハで発揮されたり学んだりできるように行っている		利用者様、個々の能力を職員が理解し、多くの事柄を共有する事で、喜怒哀楽を共にし、支え合う関係を築く
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	御本人様の様子を良い事も悪い事もすべて御家族へ伝え、共により良い方法を考え支え合うようにしている		職員が家族へ気軽に何事も相談・話す事が出来る環境を整え、支援体制を整える
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人様と家族が外食をしたり、ホーム内で昼食をとったりとコミュニケーションが取れるよう支援している		家族と利用者の関係が途絶える事のない様に蜜に連絡を取り合い、支援を続ける
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の時間等の制限を行わず、外食やホームでの利用者様と御家族との会食等もできるようにしている		本人の希望を聞き、外泊等は家族と調整の上、実施出来る様に支援する
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者様同士の関係がうまく行くように職員が間に入ったり、孤立しないように声掛けなどを行っている		利用者の動向に気を付けた見守りを行い、利用者同士の関係を職員が充分に把握出来る様に努力する
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在1名の方が再び自宅へ戻り自立した生活を始めた所であり、今後どのような対応をしていくか検討している		死亡や入院の為退所された御家族にも定期的に連絡を実施している。 今後も続けていきたい
	その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
	1. 一人ひとりの把握			
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の思いや希望を聞きできる限り意向に添えるよう努力している		意志伝達の困難な利用者に対して、本人の思いを職員が理解出来る様に努力する
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活環境は御家族又は本人様より情報をいただき、誰にでも確認できるようファイルされている		入所時に十分なアセスメントを取り、情報収集に努める
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	何か変化や気付く事があれば、申し送りノートや看護日誌を用いて情報を共有している		利用者様本位の現状把握が出来る様に支援する

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成前に、本人・家族と話し意見や希望を聞き計画の中に取り入れている		担当職員一人の考えだけでなく、職員全員の協力を依り、アセスメントを充分に取り今後の介護計画を作成する様に努力中
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の変化に応じて随時見直しを行い、より良いプランを作成している		体調不良時の入院等の依り、本人の状態変化に応じたケアプランを作成し、少しでも利用者本位になる様に努力する
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は生活日誌や健康日誌に記録し、情報が共有できるようにし、見直しの時には十分活かせるよう努力している		記録は充分であり、情報の共有も出来ているが、職員全員に周知徹底出来る様にしたい
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	できるだけ要望に答えられるよう努力している		併設デイサービスのレク行事への参加や、デイサービス利用延長者への食事提供は実施しているが、今後も拡大していきたい
	4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	いろいろな機関に協力を呼びかけ、利用者様の希望に応じて買物等にでかけ、近所の方々へなじみの関係ができています。 周辺地域の施設は出向けば協力してくれる		協力の呼びかけが不十分だと思われる為に、今後も継続して呼びかけを行いたい
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	本人様の意向や必要性に応じて柔軟に対応できるようにしている。 又、他のサービス事業者と連携をとれるようにもしている		地域の他のケアマネージャーとの交流を深めていきたい
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括センターの担当者との連絡は常に行われ必要に応じて支援している		地域包括支援センターとの連携は取れているが、ケアマネジメント等については今後の課題である
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と連絡を取り、本人・家族の希望も伝えより良い医療を受けられるようにしている		かかりつけ医との関係は十分に築けていると思われるが、今迄以上に関係を築き、適切な医療提携が出来る様に努力したい
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医と連絡を取り、分からない事があれば相談し、認知症に対しての十分な治療が行えるように支援している		かかりつけ医がもの忘れ外来も実施している為、認知症に対して安心出来る。今後も勉強会等を実施していただきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	DSの看護師とは毎日連絡を取り、気軽に相談し意見をもらっている。 又、かかりつけ医の訪問看護師とも気軽に相談出来ている。		デイサービスの看護職員及びかかりつけ医の訪問看護師との連携を深めていく様に努力する
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医者や看護師と病院での生活を電話で尋ね、又、病院を訪問して情報を交換している		入院の際にスタッフが可能な限り面会に行く等して、多くの視点での経過観察を行い対応出来る様に努力する
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期をむかえる御家族様と十分に話し合いを行い、希望等色々な情報は全職員で共有している		ターミナルケアに際しては、本人・家族・全職員との十分な協議の末、実施出来る様、又、医師との増々の連携を図る
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者様の重度化や終末期については全職員で考え話し合い、どのように支援するか、又、かかりつけ医との連携を取りアドバイスをもらいながら進めている		今後も常に話し合いを行い、チームケアで支援出来る様にかかりつけ医を軸に準備していきたい
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	くわしい生活歴等を聞き、十分な情報交換を本人・家族・職員と行っている		住み替えが発生する場合には各関係者と十分に話し合い、本人のダメージを防ぐ様に努力したい
	その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
	1. その人らしい暮らしの支援			
	(1) 一人ひとりの尊重			
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの保護は十分に注意し、記録物の取り扱いには十分気をつけている		個人の尊厳を守り、プライバシー保護には十分に気をつける
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活の中で利用者様の希望を聞き、活動への参加の意志はその都度確認している。 又、わかりやすい説明を行い納得していただいている		利用者全員の現状把握が出来る様に努める
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースに合わせ生活できるよう支援することを心がけている		御本人の希望を伺い、本人のペースに合わせた支援を心掛ける

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者様の希望に合わせて月1回の理美容院に来てもらったり、家族が付き添いなじみの店を利用したりしている		本人の意向で選ぶ事の出来る様に、洋服の整理等を行ってみる
56	食事を楽しむことのできる支援 重食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の買物・調理・片付けまで利用者様の出来る力を生かし、参加していただいている		片付けは定着しており、利用者様も快く手伝って下さるので、準備にも参加を促す様に試みる
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	好きなおかしや飲み物は御家族様に用意していただいたり、職員と買物へ行ったりしている		食事管理が大切な疾患者もいる為に、個人の状況に合わせ対応出来る様にする
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	それぞれの排泄パターンを理解し、失敗をしないよう声かけや支援を行っている		個人の排泄パターンを今以上に把握し、失禁せずに済む介護を行いたい
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者様へ入浴の声かけを行い意志の確認をして入浴していただいている		行事の関係や受診等で入浴していただく事もある
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	休息や入眠の時間はそれぞれ異なり、利用者様の状況に応じて対応している		本人の生活ペースを把握し、安眠出来る環境を整えられる様に努力する
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割や楽しみごとは把握するように努めているが、気晴らしの支援は十分行えていないのが現状です		毎日変化のない生活を送られている方もおり、もっと楽しみを見つけ支援していきたいと考えています
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の能力に応じて自己管理していただいている。又、買物や外出の時にご自身で財布を持ち、職員が見守りながら支払いができるよう支援している		今後も可能な限り利用者本人が買物が出来る様に支援していきたい
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	それぞれ利用者様の身体状況によって外出する事が難しい事もありますが、できるだけ希望に添えるよう努力しています		個別の買物等、ゆっくりとした時間がとれるように考え、支援していきたいと思えます
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	地域との交流で夏祭り・運動会・お花見等、外出の機会をもうけている。 又、少数ですが家族様と外出され、外食やドライブを楽しまれる方もおられます		職員の数に限りがあり、制限もある為に御家族への協力体制を整えたい

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様個人で携帯電話を所有し、御家族様へ連絡を行っている方もいらっしゃいます		文字を忘れない様に支援する為にも、手紙を書く事が出来る様に努力したい
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	御家族様や馴染みの方の訪問時には個人の居室や会議室へ案内し、楽しい時間をすごしていただいている		家族が気軽に訪問出来る様に職員が接遇に気をつける様に工夫する
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回の会議において毎回身体拘束について話し、安全の為に必要又は本人・御家族様が必要と考えられているベッドの二点柵については同意をいただいている		全ての職員が正しく理解してはいない為、今後もカンファレンス等で説明を行い身体拘束ゼロを目指す
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	グループホームは二階にあり専用の玄関がある ホーム前の交通量も多い事から安全の為鍵をかけている状況にある		ホーム前の道路の交通量から安全の為施錠にしているが、鍵をかけなくて済む様に努力・工夫していきたい
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	できる限りのプライバシーの配慮を行いながら、夜間1時間おきの見回りや日中の声かけを行っている		居室で過ごされる事の多い利用者への見守り・声かけに重点を置き、状況把握していきたい
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	それぞれの持ち物の把握をして、状況に応じて職員の見守りの中、危険を防ぐようにしている		刃物等はフタを作り直接手の届かない場所に置き、状態に応じ本人より危険物を預かる事が出来る様に環境作りを行う
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	かかりつけ医による勉強会や火災訓練を行い、それぞれの利用者様に応じた対応をしている		いつどの様な形で事故が発生するかわからない為、十分な知識を得る事が出来る様勉強会を行う
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急マニュアルはすぐに手にする事ができる場所にある		消防署による応急手当の訓練はあるが、毎回全職員が受ける事はできていない
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常時の避難経路を確保し、マニュアルを作成。消防署による避難訓練も行っている。 又、近所にコンビニがあり、日頃より利用者様とも買物に出かけ交流を図っている		地域とのかかわり合いを深く持ち、協力が得られる様に働きかける
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用者様の状況を良く理解し、それに伴ってのリスクは家族様に伝え、最善の対応ができるよう十分な話し合いをしている		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェックを行い、又、週一回の体重測定等変化が見えた時にはすぐに職員間で申し送り、又、かかりつけ医への連絡も早く対応している		小さな変化を見逃す事のない様に、常日頃から利用者様の顔色・表情・食欲等にも気を付ける様に努力する
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更など医師の指示と内容については健康管理シートに記録。薬の説明書は必ず目を通し、与薬ミスを防ぐ為チェックリストを作成、何度もチェックを行っている。 症状の変化は常に医師に相談している		薬に対する職員の意識向上に努め、二重・三重のチェックシステムに依り、ミスのない様に支援を続ける
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	それぞれの利用者様の排泄パターンを把握し、それに伴った水分量や運動の声かけを行っている		食物繊維を多く含む食材や声掛けに依る水分摂取、朝の体操以外にも身体を動かす様にしていきたい
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後必ず口腔ケアを行い、できない所は支援し、又、必要な方には歯科医の往診を行っていた		訪問歯科との連携を計り、口腔内の清潔・義歯管理等を行う様に努める
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常に水分量や食事をチェックして、水分摂取の少ない方にはさまざまな工夫を行い、又、声かけしながら細かく摂取していただいている		水分量摂取の少ない方の為に細かなチェック・声掛けで対応。 栄養過多にならない様にメニューにも工夫をしていきたい
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	利用者様と職員はインフルエンザの予防接種を行い、他の感染症についてもマニュアルを作成、常に注意して手洗いやうがい等を行っている		うがい・手洗いを徹底し、小さな事から出来る感染予防を常に心掛ける
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具の消毒や衛生管理を行い、デイサービスの厨房とも連携して安全な食材の使用と管理をしている		衛生管理の徹底に依り、食の安全に努めていきたい
	1. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	グループホーム専用の入口までに植込み等があり、又、インターフォンを押しモニターで確認後、出入口の開閉を行い、安全・防犯に配慮している		玄関が歩道より少し奥まった所にある為、近隣の方達には気軽に入ってこれる事は難しい所かもしれない為、今後工夫していきたい
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の状況に応じてテレビの音やカーテンを使用して光の調整を行っている。又、フロアには季節感のある壁面の作品を利用者様と共に作成し、職員が季節の花等をテーブルに飾ったりしている		生活感や季節感を取り入れ、細やかな配慮の元、生活していただける様に努力する

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにテーブルや椅子・ソファ等を置き、仲の良い利用者様同志でおしゃべりをしたり、テレビを見たりと自由に過ごしている		利用者にとって居心地のよい空間作りを今後も心掛ける
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使いなれた物を自由に持ち込んでいる。テレビ・写真・椅子等、限られたスペースの中はあるが、これまでの生活で使っていた物を、又、ホームの生活で作成した作品など利用者様の好みで飾ったりしている		利用者の好みを把握し、家族とも話し合い、使い慣れた物の持ち込みを今後もお願いする
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝掃除の時には全室の窓を開け換気を行い、各居室にはエアコンが設置され温度調節をし、湿度は加湿器を使用して調整している		換気を充分に行い、湿度や温度の調節に気を配る
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室等必要な所には全て手すりを設置。 浴室にはすべり止めマットを使用している		利用者が安全に暮らす為に目配りを忘れず、退所する
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレには大きくトイレと表示している。 又、居室がわからなくなる利用者様の為に居室の入口に目印となる物を飾っている		本人の能力を活かせる様に工夫し、混乱時にはゆっくりと対応出来る様にする
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダにはベンチが設置され、天気の良い日には体操を行ったり、お茶を飲んだりといこいの場所となっている		A D L レベル低下に依り、外出の機会が減少した為、ベランダの有効利用をしたいと思う

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
100	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者様のA D Lの低下にともない外出レク等が以前に比べむずかしくなっているが、ホームの中で季節の行事やお誕生日会などを催し、又、利用者様と一緒に壁面の飾り等作成したり、日々小さなレクリエーションを楽しんでいる。

職員は利用者様の個性を尊重し、それぞれに合った対応、声かけ、寄りそう事で安心して暮らせるホームを目指しています